

第2回村上市子ども・子育て会議 会議録

会議名	第2回村上市子ども・子育て会議
日時	平成30年11月21日（水）午後3時00分～
会場	村上市役所本庁5階第4会議室
出席者	<p>委員：9人（仲委員長、富樫副委員長、齋藤委員、能登谷委員、遠山委員、田中委員、加藤委員、本間委員、鈴木委員）</p> <p>-----</p> <p>欠席委員：光林委員、船山委員、神田委員、剣持委員、楠田委員、大滝委員</p> <p>-----</p> <p>事務局：山田福祉課長、信田保健医療課長、平山福祉課課長補佐、中嶋朝日支所地域振興課課長補佐、木村山北支所地域振興課課長補佐、船山学校教育課教育総務室副参事、高橋福祉課子育て支援室副参事、小林福祉課子育て支援室係長</p> <p>オブザーバー：日経マシナリ(株)ソーシャルビジネス事業部 熊倉、高橋</p>

会議録

1 開会

山田福祉課長：ただいまから今年度、第2回村上市子ども・子育て会議を開催します。本日は、皆様におかれましてはお忙しい中又の足元の悪いところご出席いただきありがとうございます。それでは次第に従って、委員長の方から御挨拶いただきたいと思います。どうぞよろしく願います。

2 委員長あいさつ

3 村上市子ども・子育て会議委員の交代について

山田福祉課長：議事に移る前に委員の交代がございましたのでご連絡させていただきます。

お手元に名簿の方配付済みかと思いますが、11月1日から名簿番号で言いますと9番でございますが笠井委員が辞任ということで届出がありましたので、後任として新発田地域振興局健康福祉環境部地域福祉課長の田中様に委員をお引き受け頂いたところでございます。

4 議事

委員長：本日、光林委員、船山委員、神田委員、剣持委員、楠田委員、大滝委員におかれましては都合によりご欠席の連絡を受けております。また、鈴木委員は16時で退席ということになります。本日の出席委員数は9人です。委員会設置要綱第6条第2項の規定により会が成立していることを報告します。

(1) ニーズ調査票（案）について

（事務局から説明）

委員：就学前児童用の31-9ですけれども、前のほうでも何回も使っているんですけれども事業って言葉がありますよね。必ず利用できる事業、その下に受けられる事業、その捉え方でいいのかどうかということと、復帰しますかというのは仕事なのか職場なのか。職場という元いたるところに

戻っていく形ですし、個々で商店とか自営をしてる人は職場ってあまり言いにくいので、共通して認識できる言葉がいいのかなと思います。事業というのがいいのかその前に支援をつけたほうがいいのか。ずっと設問に答えていけば抵抗なくいけると思うのですが、ただやはり初めてこの質問票を見られた方がより具体的に答えられるかどうかを一番に考えてあげたほうが親切なのかなって思いますので、その辺配慮をお願いします。

平山課長補佐：事業という部分につきましては回答者がわかりやすい形でこちらで検討させていただきます。

委員長：職場に復帰ですと特定の職場に戻る場合もあれば、仕事を変える場合もございます。復職でしょうかね

副委員長：ハローワークさんに聞いたことがあるのですが、育児休業をとるということは、またその職場に戻るという前提であって、育児休業のお金を1年貰った後に復帰しないで辞めるのはあまりよろしくないってことですよ。その会社で掛けている雇用保険を元に支給されるものなのでよっぽどの事情がない限りはということでした。

平山課長補佐：回答といたしましては1歳になる前に職場復帰したいということで修正の方をさせていただきます。

委員：小学校児童用の問37番。家庭学習に限定しない方がいいのかなと思います。学童保育に来ている子どもたちが必ず宿題+α1時間以上勉強してから遊ぶようにしている。親御さんも安心して預けていることもある。塾ということも考えられませんか。

平山課長補佐：学校以外のところで塾、学童という話がございましたので広く捉える形で学校以外のところでの学習時間を問うような設問に変えさせていただきます。

委員：学校以外と出ましたけど、うちの子も学童に行ってるのですが、問36遊ぶ時間も学童で遊ぶ時間もあるのですが、家だけではなくてそういうのも考えて入れる時間ですか。

平山課長補佐：特に限定して言ってるわけではないので、学童に行って外で遊ぶ時間も含めという捉え方でよいと思います。逆にこの問いの仕方でわかりづらいということであれば設問の仕方を変える考え方もあると思いますが。

委員：未就学児、小学校の共通である設問なのですが、小学校の方ですと問12番で、実は私が、就労したいのに今就労していない理由を聞く設問を追加できないかという意見を出させていただいたのですが、子育てに専念したいのか家事に専念したいのかというのを聞いたかったのではなくて、本当は就労したいのに下のお子さんが障害を抱えていて他のところに預けて就労することができないとか親御さんの介護があるとか、ニーズに合うような仕事を見つけることができないとか、そういう就労を阻むような理由があったりしないのかと記載させていただきました。就労をしたいが難しい理由、何々みたいに関項目があつたりすると就労したいのにできないという家庭の内情が見えるかなと思います。就労したいけれどできない理由を細かく聞く必要がないのでしたらこの項目は必要ないと思うのですが、私の思ってる趣旨と違っていたので意見を言わせていただきました。

平山課長補佐：その他として阻む理由を書くところの記載方法でしょうか。こちらで検討したいと思います。

委員：相談を受けていると育児休業制度のないところに勤めてる方が多いような気がします。そのような方が就労だったり経済的困難を抱えていたりというのが多いと思います。その方たちに対する設問がありませんので何か工夫はできないでしょうか。育児休業制度のない所であったために離職をした。そこから仕事を探すために保育園などに入園するときに時期が不明確になるので非常に保育園などに預けるのが困難になると思う。相談が非常に多いその辺の困り感を拾っていただけないでしょうか。

委員：先ほどの問12番のところではそれがちょっと拾えないのかなっていう思いもあります。本当は就労したいけれど就職活動中にどこに子供を預ければいいのかわからないとか、障害を抱えているお子さんがいて学校にずっといることができなくて早く帰ってくるのに対応が必要で、臨機応変に対応してくれる職場を見つけることができないとか、そういう事情をここだったら聞き出せるのかなと思って提案させていただきました。

平山課長補佐：設問を考えてまた提案をさせていただきたいと思います。

委員：予防接種をお金がないので受けさせないっていうおうちの方が結構いらっしゃいます。医療費についての充実みたいなものも経済的支援に入るのかなと思います。追加できないものでしょうか。市の医療費についてどの程度の無償化になっているのでしょうか。

信田保健医療課長：保健医療課の予防接種の関係ですが、子どものインフルエンザ予防接種に関しては、国保の世帯の方は18歳までだったと思いますが助成があります。社会保険の方については会社等であるところも多いと聞いております。法定の予防接種は国保、社保に関わらず子どもは無料で実施しております。

山田福祉課長：子ども医療費に関しては、1回につき530円月4回まで、5回目から無料という形になりますので、一つの診療科目ということで2千円ちょっと。具体的にこの部分の医療費ってまだ不十分だということが見えてくると、それに対する設問も入れやすいけれども一概に医療費をどう思いますかと言ってしまうと、具体的なものじゃなくて負担なしという答えでは、折角入れた設問がもったいないかなと思います。

委員：出産については載ってないんですね。出産についての相談はあるのです。市内に産院がありませんので市外県外に産院を求めることになります。もしかしたらここで諮ることではないのかもしれないですけど、もし他のところで情報ですとか、アンケートなどがあったら教えて頂きたい。

平山課長補佐：具体的ではないかも知れませんが、子育てしやすい環境整備のところ、①妊婦健診、乳児健診の充実ですとか、⑩妊娠や出産、子育てに関わるための意識啓発でのところの充実度を記載できるようになっています。

委員：村上市で出産して子供を育てるって言ったときに、子どもを育てるのが主題ではないので、ここで子どもを産みたいかっていうのは一番最初にくることだと思います。ここで諮るのはちょっと違うのかなと思いますので、それは違う場所でいいと思うのですが、そういうところの調査もした方がいいと、これだけ少子化が進んでいることを考えると必要なんじゃないかなと思います。

山田福祉課長：答えになってないのを承知でお話ししますが、今回の子ども子育てニーズ調査、少なくともこういうことを調査として入れてくださいというのを国から下りてるのとプラス村上

市として折角調査するのだからと増やしてる部分もございます。他にも委員がおっしゃってくれたようにいろんなことを聞いていきたいな、こんなことはどうだろうというのがきっとあるだろうと思います。しかし書く人も含め、集計する人も含めて何でもかんでも入れることはやはり限度があるように感じております。私も特にこの就学前児童用は見ただけでも結構なボリュームがあると。そこで単純に良いものばかり増やしていくわけには行かないので、これだけは絶対聞いた方が将来の為になるというものは具体的な質問事項として教えていただければ本当に検討していかないと考えております。その辺の判断は難しいのですけれども、不要な質問も含めてその代わりにこちらの質問に変えたらどうだろうというような中で調整できればありがたいと考えております。妊婦の時点で、また出産の時点でのそれに特化した調査は今のところされてはいないということでもあります。

平山課長補佐:例えば妊娠した時にどこで産んだらいいんだろうっていうような問合せがあるという事であればどういった形になるかはわかりませんが情報提供という部分が必要になってくるかと思っております。その辺の問いは先ほどの充実度のはかるところの間33のところ意識啓発、そんなところで諮っていきたいと思っております

委員:別にこのアンケートに関係することではなくて、なぜこういうことを言うかと言うと核家族化と家庭事情ということに非常に背景が複雑化しているために里帰り出産をなかなかできないということがあります。どこで産んだらいいのか産院の問題ではないんですね。産後出産直後どうやって過ごせばいいのかというところに通じるわけです。産後の1か月どうやって過ごせばいいかってところに通じるわけなんですね。山北で就労していないお父さんお母さんがいて里帰り出産で村上に帰ってきて見てくれる人がいれば安心して産めますよ。産院がどこであろうと。里帰り出産したいけれども実家がそういう環境にないもしくは里帰り出産したくても核家族なのでだめといった状況であったりというのが増えてるような気がするのです。就労年齢あがりましたよね。そのためにおじいちゃんおばあちゃんが働いているというあたりの背景もあります。誰も面倒を見てくれる人がいないので他に子どもがいながら産後1週間家事など全部切り盛りするお母さんもいらっしゃると思います。母子健康的にはよくないと思います。その辺の背景をご存じ頂きたいと思っております。

委員長:かなり根本的な問題だと思いますね。本市の大きな問題は人口減少なわけですけども今お子さんをお持ちの方にサポートがあるかというのはもちろんですけど、どれだけ子どもを産みやすいまちか本市の将来にかかわってくる問題になりますからね。何らかの形で汲み取っていけるとよろしいのですが。そういう項目があればデータとして残すことができますのでね。

委員:ちょうど今私の同世代が出産の時期になってるんですけども、やはり村上市の病院ではなく、新発田市の病院で出産する子達がほとんどですので出産が近いとなると旦那さんも携帯を離さずもって陣痛がきたと連絡がきたら1時間から1時間半をかけて病院までいくっていう状況だというのを耳にしている正直不安というのが大きいなというのと、あと雪の時期に出産という方たちは相当不安感で妊娠しているお母さんたちが苦勞している様子を見ていましたので、安心してこのまちで産みたいと思える環境作りは大切だと思いますし、まず今子どもを産んで育てたいという状態なら子どもがいるかいないかの選択する時代にもなってきますので、よりよい環境を求められるのかなと思います。

委員長：これから生みたいけどなかなかこういう状況に阻まれてるみたいな方のことも汲み取って
いけるような調査であれば、充実した調査になるかなと思います。先ほどはこれ以上増やすのはと
うご意見でしたけどどうでしょうか。

山田福祉課長：委員長がおっしゃっていたようにこちらの調査というのは正直お子さんがいらっし
やる、一つは就学前ということで5歳までのお子さんがいらっしやる。もう一つは小学校のお子さ
んがいらっしやるという中で、今、その妊婦の時あるいは出産のときという設問を増やしていった
場合にその時どうだったかなと思うのはあったとしても、今その場面に遭遇している方なのかなと
考えてしまうところがございます。質問を複雑化していった場合にそちらの方よりも、今私の方と
したら確かに妊婦の時から子育てに関わってくるのかもしれませんが、どちらかという今お子さ
んを持ってらっしゃる方を主体になっている調査になってると思います。そういう中で今おっしゃ
った部分に関しては別な形と言いますか、ここにどんどん加えていいものなのかなと思ってしま
います。本来であればこれから出産を迎える方ですとか、今その状況にある方がどう求めるのか、ま
たこれから結婚してお子さんを作りたいと思ってる方々が何を阻害しているのか、またその手前
に行くとなぜ結婚しないまで行くと思うんですけども、そういった対象者を絞った調査にした方が
いいのではないかという気がします。

委 員：妊婦健診とかいろんな医療機関だったりとか母子健康手帳とか交付を受けた時とか出産の届
け出があるわけですので、その時にアンケートを書いていただくとか住民意識調査ということで言
えばいろいろな場面があるかと。特に妊娠、出産のことに届け出が必ずくるわけですのでそういう
ふうな機会をつかんでいただけるとありがたいなと思います。

委 員：この調査票ってかなり複雑ですよ。たぶん出してくれるとは思うのですが中までちゃ
んと読み込んで書いてくれるのか。回収率が極めて重要です。中身が半分無いとなるとそれは調査
失敗っというていいと思います。これを配るときに丁寧に頼んでおかないと書いてくれないと思
います。他の調査もそうなんですけど必要があって調査してると思いますので、配付する時によ
ほど丁寧に頼む必要があるのではないかと感じました。前回の回収率は結構高かったのですが、だ
んだんこういったものは答えてくれなくなっていったるんですよ。個人的な質問が入ってます
ので、それ見た途端カチンときて後書いてくれないというのを想定されます。この調査、す
ごくいいのですが、回収率は逆に下がると思います。

委 員：小学校児童保護者用の10ページの間25、問5で配偶者がいると答えた方だけご回答
くださいとした方がいいのではないのでしょうか。

平山課長補佐：小学児童保護者用の10ページの間25、問25-1で配偶者という出だしです
けどその前に問5のところにいるかどうか確認してますので、問5でいると答えた方という
前置きがあったほうがいいのかという意見でしょうかね。事務局の方で文言を修正さ
せていただきます。

平山課長補佐：回収率非常に気になるんですけども事務局としましては就学前児童保護者につ
きましては保育園等に通われてるお子さんの保護者宛には施設を通して配付回収の
お願いをしたいと思っておりますし、小学校につきましては小学校を通して配付回収を
させていただきますとなるべく回収率を上げるためにそのような形でやってい
きたいと考えております。

(2) ニーズ調査の実施期間について

(事務局から説明)

5 その他

第1回子ども・子育て会議の会議録について (平山課長補佐から説明)

第1回子ども・子育て会議における確認事項について (高橋副参事から説明)

(ながらパトロールのステッカーについて)

6 次回の委員会日程

山田福祉課長：本日はありがとうございました。次第の6という事で次回の日程のことについてお話しさせていただきます。年度中、最後になると思いますが、第3回子ども・子育て会議は来年になります。アンケートを今ほど説明したとおり1月ということで、その回収、結果のご報告を皆様にできればと思っていますので、来年3月の中旬から下旬頃ということで予定を立てて頂きたいと思っております。具体的な日程と詳細につきましては近くになりましたら改めてご案内させていただきますので、またお時間のほどご出席のほどよろしくお願いします。予定してる時間より早く終わりましたが最後日程に7という事で閉会の挨拶のほどを富樫副委員長からお願いしたいと思っております。

7 閉会

副委員長：今日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございました。ニーズ調査の方、結構盛りだくさんで記入される保護者の方達、大変かもしれませんがこういう機会に声を聴いてもらいたいなって待っている方もいると思いますので、そのへんは汲み取って頂いて市の方に頑張って声を聴いて頂きたいと思っております。今日はありがとうございました。

午後4時21分 終了